

平成 19 年度事業実績の概要

実習教育研究プロジェクト (プロジェクトリーダー: 空閑浩人)

初年度 (平成 19 年度) は、主に社会福祉士養成のための実習教育をめぐる現状と課題の整理、および今後の研究内容や方法に関する打ち合わせを行った。

2007 年 11 月の「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正に伴い、社会福祉士養成カリキュラムの見直しが行われている状況をふまえて、各養成校や実習受け入れを行っている社会福祉現場の抱える課題について、各研究員が分析・検討を行い、それを持ち寄って研究会を開催し、意見交換を行った。

そのうえで、実習生を受け入れる側である現場や実習担当職員の悩み、また実習生を送り出す側としての養成校の課題、さらに実習生である学生の体験という 3 つの観点から、今後の本プロジェクトで扱う研究の内容や方法を探った。

社会福祉士養成における実習教育では、社会福祉現場における「ソーシャルワーク業務」について、実習生が体験的に理解することが重要となる。そのために、現場と養成校さらに実習生の 3 者が共有できる「現場実習プログラム」が求められる。これまでの研究で整理・検討してきた社会福祉士養成のための現場実習における学習項目や体験内容について、それらを「現場実習プログラム」に反映させていくための研究を進めていくことが次年度に向けての課題となる。

平成 20 年度事業の計画概要

平成 20 年度は「現場実習モデルプログラム」の作成に向けての取り組みを進めていく。各分野や施設種別毎に、本学 (同志社大学) の学生の実習先での体験内容について学生の実習記録から抽出する作業を行う。

また、社会福祉士実習の受け入れ経験が浅い病院については、実習指導者 (医療ソーシャルワーカー) との共同研究会を開催して「病院における実習モデルプログラム」の作成を行う。

実習教育における現場と養成校との連携や協働が重視されるが、現状では、その具体的な手段が十分に共有されていない状況にある。現場の実習指導者が抱える課題、あるいは学生が実習のなかで体験する悩みやとまどいなどを踏まえての、養成校での事前指導と事後指導のあり方に関する検討が必要である。社会福祉士養成のための実習として求められる学習内容や体験内容が整理された「現場実習モデルプログラム」の作成により現場と養成校との連携による質の高い実習教育の実践が可能になると考える。

年度末には、各施設・機関種別の「現場実習モデルプログラム (案)」を作成し、平成 21 年度に実施予定の現場からのパブリックコメントの募集に向けての準備を進めたい。